ホテル エーゼット
HOTEL AZ だより 2026年 春編
Vol.24 令和8年4月号
ご自由にお持ち帰りください

熊本・大津町の旅

つつじは、大津町の町花です。4月中旬から下旬にかけて
咲きそろい、町内を春色に彩ります。
毎年4月下旬の日曜日に町内三大祭りのひとつ、
「大津つつじ祭り」が開催されます。

人・時めぐり逢い紀行⑲

熊本地震から10年。町村合併70周年、本田技研工業（株）熊本製作所誘致50年という節目の年を迎えた大津町。さらに、お隣・菊陽町へのTSMC進出を追い風に、次なる重要拠点都市として大きく動き出しています。変化、進化、魅力化の真っただ中にあるまちの「今」と「未来」を、金田英樹町長に伺いました。

［発行問い合わせ］
株式会社アメイズ 福岡事務所
TEL:092-605-3321 FAX:092-605-3335
〒811-0213 福岡市東区和白丘2-3-2
令和8年4月発行 発行責任者 穴見 賢一（代表取締役社長）

大津町（おおづまち）は熊本市と阿蘇山の中間に位置します。国道325号（久留米～阿蘇～延岡）と国道57号（長崎～雲仙～大分）が縦横に走り、九州縦貫自動車道・熊本ICや阿蘇くまもと空港も近く、農工商が併進する発展目覚ましい田園産業都市です。

人時邂逅（ひとときかいこう）

穴見 賢一（ANAMI KENICHI）
代表取締役社長
株式会社アメイズ
1970年生まれ、大分県佐伯市出身。2016年『ホテルAZ』を全国93店舗展開する『株式会社アメイズ』代表取締役社長に就任。趣味はロードバイク、カメラ、ラジコン（車、飛行機）。

金田 英樹（KANADA HIDEKI）
熊本県菊池郡
大津町町長
1982年生まれ。大津町出身。慶應義塾大学経済学部卒業後、第一生命保険に就職。2012年退職し、帰郷。2013年、大津町議会議員選挙で最多得票数で初当選。2021年、大津町長選挙に立候補し、選挙時点で熊本県内最年少の首長となる。2025年再選。現在、二期目。

熊本地震から10年。合併70周年。本田技研工業㈱熊本製作所誘致50年。節目が重なる、特別な2026年

金田 熊本県はもともと地震が少ないというイメージもあり、多くの企業や工場を誘致してきた歴史があります。しかし、2016年の熊本地震で大津町も甚大な被害を受けました。当時は、この先地域がどうなってしまうのかという不安や、企業の撤退が相次ぐのではないかという強い懸念もありましたが、地域の底力と多方面からのご支援により、多くの企業がこの地に踏みとどまってくださいました。私が町長に就任したのは、その5年後のコロナ禍の真っ只中でした。就任して半年ほど経った頃、TSMCの進出が発表され、そこから空港アクセス鉄道や中九州横断道路のプロジェクトも一気に動き出し、企業進出や住宅開発も進んでいます。本当に未来には何が待っているか分からないものです。こうした動きが呼び水となり、まちの風景は一変し、逆風は力強い追い風へと変わっていきました。

穴見 それは地元にいないと実感できないことですね。当社の熊本大津店も鉄骨造なので倒壊はしませんでしたが、内部はグチャグチャになってしまいました。復旧を急いで、お客様にご利用いただけるようになったのですが、当時は大変だったことを思い出します。

金田 かなり稼働率の高いホテルなんですよね。予約がなかなか取れないと皆さん、言われます。

穴見 当社のホテルの中では古株のホテルなのですが、長くご利用いただいて、本当にありがたいことだと思っています。

金田 大きな被害を受けても立ち上がり、力強く復興している姿をぜひ多くの方に知っていただきたいと思っています。苦しい時期があっても、必ず光は見えてくる。それを大津町の姿から感じてほしいのです。もちろん、そこには多くの方々の応援、支えがあって今の大津町があります。今年は熊本地震から10年の節目であるだけでなく、町村合併し新しい大津町になって70周年、本田技研工業㈱熊本製作所が大津町に進出されて50年という大きな節目の重なる年になります。さまざまな周年行事を通し、町民の絆を深めるだけではなく、大津町の再生に関わってくださった方々へ感謝の気持ちを発信したいと考えています。

穴見 大津町は本田技研工業㈱の唯一の二輪生産拠点でもありますね。

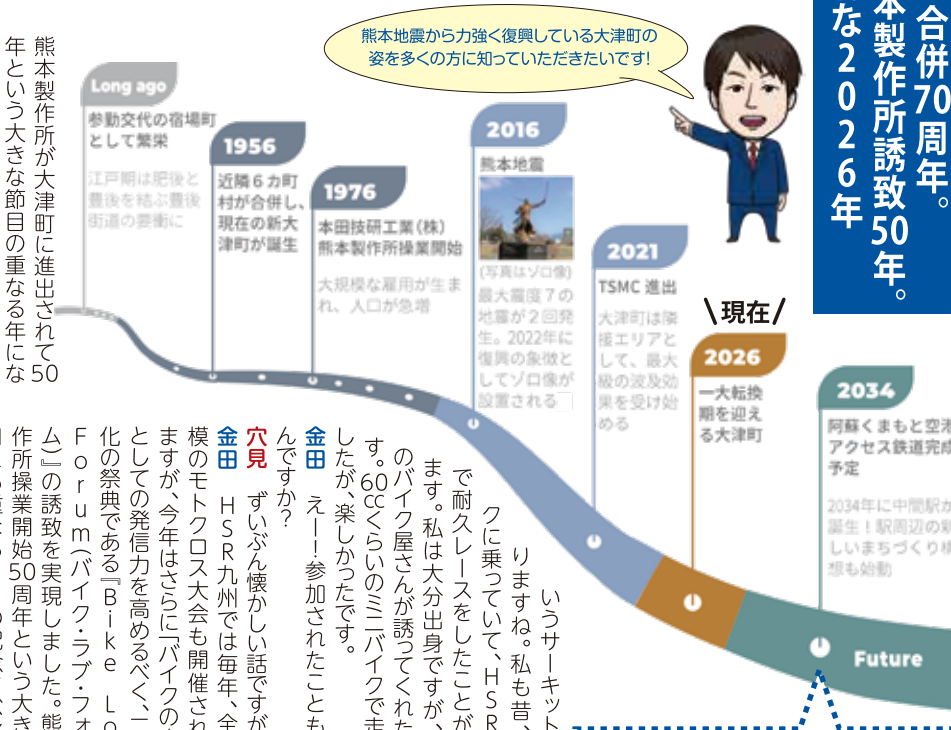
金田 はい。大津町は1956年の町村合併から、一時は2万2000人を超えた人口が減少傾向となり、約50年前には約1万8000人にまで落ち込みました。しかし、本田技研工業㈱の進出（1976年）を大きな転換点として、流れは増加へと転じ、現在は3万6000人を超えるまでに成長を遂げています。同社では、現在も関連会社を含めて工場の敷地内だけで約4000人もの方々が働いておられ、まさにまちの発展を半世紀にわたって支え続けている大きな原動力となっています。

穴見 工場の敷地内にHSR九州というサーキットもありますね。私も昔、バイクに乗っていて、HSR九州で耐久レースをしたことがあります。私は大分出身ですが、地元のバイク屋さんが誘ってくれたんです。60CCくらいのミニバイクで走りましたが、楽しかったです。

金田 えー！参加されたこともあるんですか？

穴見 ずいぶん懐かしい話ですが（笑）

金田 HSR九州では毎年、全国規模のモトクロス大会も開催されていますが、今年はさらに「バイクのまち」としての発信力を高めるべく、二輪文化の祭典である『Bike Love Forum（バイク・ラブ・フォーラム）』の誘致を実現しました。熊本製作所操業開始50周年という大きな節目とも重なる9月の記念イベントには、全国から多くのファンに集まっていただきたいですね。



人の暮らしを中心に都市化をデザインする

穴見 出張などで大津町を訪れる人や住まわれる人は急増しているのではないですか？

金田 まさにその通りです。企業進出・工場等増設は、かつては全くない時期もありましたが、この5年間だけで一気に50社を超えています。これに連動して住宅の新規開発申請も急増しており、昨年1年間だけで2000世帯分を超える規模に達しています。また、阿蘇くまもと空港から肥後大津駅を結ぶ無料の「空港ライナー」が30分に1本運行していますが、利用者も増え続けています。また、肥後大津駅をはさんで熊本市中心部と阿蘇くまもと空港を結ぶ空港アクセス鉄道が2034年度中に開通することに合わせて、大津町として空港と肥後大津駅の中間地点に新駅をつくるプロジェクトが動き出しています。HOTEL AZさんからも比較的近い場所になる見込みです。

穴見 空港は少し高い場所にありますよね。どうやって線路を通すのか、正直想像がつきません。

金田 昨年末に詳細なルート案が示されましたが、高台になる辺りは空港に繋がるトンネルを通す計画です。現在の肥後大津駅周辺も含めて、さらなる賑わいが生まれると期待しています。ただ、課題もあって、こうした変化や発展のスピードがあまりにも速く、まちの基盤整備が追いついていません。町内は約1万6000世帯ですが、過去5年間で5000世帯を超える住宅開発申請が出ているんです。

穴見 住宅用地の確保も相当大変そうですね。

金田 マンションやアパートが増えていますが、戸建てに住みたいというニーズも強いため、計画的なまちづくりが必要だと考えています。中間駅もこのエリアに設置予定で、住宅開発や商業モールの誘致など、賑わい創出も計画しています。

穴見 人口が増えると、車も一気に増えますね。

金田 そうなんです。一部道路の4車線化といった町のハード整備の計画もありますが、完成までにはどうしても時間がかかります。そのため、現在は信号の表示時間の調整や、企業・役場での時差出勤、さらには本田技研工業㈱やセミコンテクノパーク（※）を結ぶ通勤バスの運行など、即効性のあるソフト面での対策に注力しています。一方で、大津町内を通り、大分と熊本を結ぶ中九州横断道路の整備も急ピッチで進められています。こうした短中期的な対策を着実に積み重ねつつ、将来的に基幹道路が延伸・整備されることで、交通の流れが抜本的に変わることを期待しています。道路や鉄道といったアクセスの利便性を高めることはもちろんですが、それと並行して、商業や飲食機能を充実させ、大津町そのものの魅力を底上げしていくことが、私たちの大きな戦略です。

（※）熊本県の中心的半導体産業集積地

「降りる・泊まる・集う」交流拠点へ！駅前再開発プロジェクトが始動

肥後大津駅から徒歩2分の場所に、JR九州による7階建てオフィスビルの建設が決定。さらに、駅の北口と南口を立体自由通路で結び、ホテルや商業施設に人々が集う「駅まち」ゾーンへと再編する駅前再開発プロジェクトも始動しています。TSMCの製造拠点を擁するお隣・菊陽町に対し、大津町は出張や業務、商談、短期滞在などの交流拠点として、都市機能の充実が期待されています。

阿蘇へ、熊本へ、天草へ―旅人が交差する現代の宿場町

穴見 大津町に来た方が立ち寄りたくなるスポットなどはありますか？

金田 全国的に見ても非常に貴重なのが、国指定重要文化財の「江藤家住宅」です。当主の方が今も生活を営みながら、大切にその価値を守り続けてくださっているという点で、まさに「生きた文化財」といえます。また、大相撲の土俵入り「不知火（しらぬい）型」の考案者とされる、第十一代横綱・不知火光右衛門（しらぬい こうえもん）も当町の出身です。昨年は生誕200年という大きな節目を迎えました。その他にもいろいろな魅力を見つけてほしいです。

穴見 熊本地震復興プロジェクトのワンピースのゾロ像も話題ですね。先ほど私たちも立ち寄りましたが、ガイドの方が外国人観光客を案内されていました。

金田 設置から5年になりますが、今でも訪れる方が絶えない状況です。ゾロ像も含め、大津の名所を訪れた方々が写真を撮ってすぐに立ち去るのではなく、まちを歩き、食事を楽しみ、さらに「このまちに泊まりたい」と感じていただけるようなさらなる魅力づくりを進めます。

穴見 大津町はもともと参勤交代の宿場町だったと聞いています。

金田 その通りです。大津町はかつて肥後（熊本）と豊後（大分）を結ぶ豊後街道の要衝として、参勤交代の宿場町で栄えた歴史があります。その「地の利」は現代も変わりません。熊本市と阿蘇市の中間に位置するだけでなく、空港へも至近で、天草へも飛行機でわずか20分。当町を拠点にすれば、午前中に阿蘇の雄大な景色を楽しみ、午後は天草で新鮮な魚を堪能するといった贅沢な旅も可能です。現在、町内のホテル客室数は約1500室に達しており、今後もさらなる増加が見込まれています。こうした宿泊基盤の充実と交通の利便性を活かし、「熊本で泊まるなら大津町」、「現代の宿場町」というキャッチフレーズで、広域観光の拠点としてもどんどん仕掛けていきたいと考えています。

穴見 大津町はますます素敵なまちになりそうですね。とても楽しみです。

【対談こぼれ話】

金田 大津町は小さなまちですが、実はスポーツ活動や文化面でも活気のあるまちなんです。

穴見 そうなんですね。

金田 町内に大津高校という公立高校があり、サッカー部は、日本屈指の名門校です。HOTEL AZさんの近くにある「スポーツの森・大津」でも、大津高校の生徒たちが練習に励んでいます。近年はJリーグ・コンサドーレ札幌が、毎年2月ごろにキャンプを行っています。

穴見 サッカー以外のスポーツも盛んだとお聞きしました。

金田 はい。パリ五輪でマラソン男子6位に入賞した赤崎暁（あかざき あきら）選手、ドラフト1位でプロ入りした読売ジャイアンツの萩尾匡也（はぎお まさや）選手、24年に引退した女子バレーボール元日本代表の古賀紗理那（こが さりな）選手など、日本を代表するアスリートを次々と出しています。「スポーツの森・大津」では、数年前はモルックの全国大会や社交ダンスの全国大会が開かれ、フィギュアスケーターの浅田舞さんも選手として来町しました。

穴見 そうなんですね。スポーツ以外ではどんな方がいらっしゃるんですか？

金田 宝塚歌劇団でトップスターを務めた真風涼帆（まかぜ すずほ）さんも大津町の出身です。

穴見 出身者の活躍される姿は、まちそのものへの関心を外に広げてくれますね。

金田 町政の中心に据えているのは「人の暮らし」です。安心があり、活力もあり、自然が豊かでありながら都市機能も充実している―そんな「暮らす幸せ」が実感できるまちづくりを、町民の皆さまの声に耳を傾けながら、今の勢いを活かして進めていきたいと考えています。

バイク

レジェンドバイクや最新モデルに出会える！

Honda熊本ウェルカムパークは、本田技研工業㈱熊本製作所の玄関口に2025年3月に開設された体験型施設です。入場無料で、歴代モデルから最新モデルまでの展示のほか、バイクにまたがって写真撮影ができるスポットやコーヒーを楽しめる休憩スペースも備えています。

Honda熊本ウェルカムパーク→

祭り

町内三大祭り「大津つつじ祭り」

町内に40万～50万本が植えられており、春の訪れとともに町中を彩ります。毎年4月下旬の日曜日に町内三大祭り「大津つつじ祭り」が開催。商店街一帯は歩行者天国となり、武者行列やステージ、屋台で賑わいます。昭和園、日吉神社つつじ園、大松山公園などのつつじスポットがあり、お祭り前後の散策にもおすすめです。

体験！

からいもフェスティバル

大津町のからいも生産量は、熊本県内でトップ。全国的にも有数のからいも産地です。毎年11月第2日曜日に、本田技研工業㈱熊本製作所内総合グラウンド、からいも畑などを会場に「からいもフェスティバル」が開催されます。芋掘り体験や焼き芋、からいも汁、スイーツなど地元グルメが満喫できる出店もたくさん！

グルメ

なぜ大津町は焼肉屋が多いのか？

阿蘇の自家牧場で育てたあか牛丼。
（道の駅大津のあか牛レストランよかよか）

大津町は人口規模のわりに焼肉店がとても多いまちです。地元の老舗から熊本県屈指の人気焼肉チェーン、高級志向の和牛焼肉店までその数10店舗以上！ 焼肉店が多い理由のひとつが阿蘇あか牛、熊本黒毛和牛の流通動線のど真ん中に位置し、鮮度の良いものが良い仕入れ条件で調達できること。大津町は美味しい肉文化の交差点でもあります。

地震遺構

瀬田神社と巨石のパワースポット

清らかな水が流れる井手用水（※）のほとりに鎮座する瀬田神社。熊本地震の際には、落下した巨石によって社殿が倒壊しましたが、御神体は無事でした。巨石をそのまま残すことで災害遺跡としての役目を果たすだけでなく、地震から守られた御神体のある存在は、人々に静かな祈りと希望の場を与えています。

（※）17世紀前半に整備された農業用水路

スイーツ

江戸時代の銅銭がお菓子になったまち

定番の白あんと黒あんのほか浪花屋オリジナル「きんかん銅銭糖」も人気！

宿場町・大津が旅人で賑わった安政時代。銅銭を紐に通して携えた姿に着想を得て、浪花屋初代当主が考案したのが「銅銭糖」。落雁であんこを包んだ上品な甘さは、170年以上経た今も名物として親しまれています。現在は町内3軒の和菓子店が味と製法を守り、浪花屋本店7代目・古庄さとこさんは出前授業を通して郷土文化を次世代へ伝えています。